

新聞掲載

南海日日新聞

R6.7.11

豊かな表現力磨く

「わくわく作文塾」初開催

奄美市名瀬

奄美大島の小学3～6年生を対象にした作文教室が6日、奄美市名瀬の奄美川商ホールでありました。奄美では初開催の教室に、20人が参加。鹿児島大学の原田義則准教授を講師に、日常生活を題材にした生活作文の書き方などを学び、豊かな表現力を磨きました。

「わくわく作文塾in奄美」と銘打った教室は、鹿児島国語教育研究会原田会主催。原田准教授を中心として小中学校の先生ら100人余りが学び合う国語の会。この日は会員約10人が指導に当たりました。児童らは原田准教授が用意したテキストをもとに▽体験したこと▽体験した後の気持ち▽いつ▽誰と▽どこで▽その時のオノマトペなどを書き出しました。作文の「書き出し」と「書き結び」も考え、「うれしい」や「悲しい」を他の言葉に言い換える方法も学びました。

作文を書いた後は、代表者が内容を発表。自身の心の移り変わりについての生活作文をまとめた東城小3年の重丸結愛さん（8）は「ちよつと年古手だった作文。すらすら書いて、こんなに楽しいんだと思った」と笑顔を見せました。

生活作文以外には読書感想文の書き方について学ぶ児童も。原田准教授は「作文を完成させると、今よりちょっと大人になった時に『あの時こんなこと考えたんだ』と分かる宝物になる。作文は、すぐに消え

に心の中、紙の上に残って、最後に最後まで書き上げていくもの。きょうの書きかけの作文も、宝物にするた



教員らの手ほどきを受けながら作文を書く子どもたち
＝6日、奄美市名瀬